

## 文献と注の書き方

(2011/09/15, 研究論集編集委員会)

本誌「原稿作成要領」(文末URL参照)の次の条項を補足するために、下記の説明を追加します。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/education/uploaddocs/yoryo.pdf>

### 3.2 引用および参考文献

本文中での引用は、投稿者の学問領域の慣習に従って行い、引用文献(References)または参考文献(Bibliographies)を記載すること。・・・

### 3.3 注, 脚注, および謝辞

原則として、注および謝辞は引用文献または参考文献の前に置く。・・・

## 記

上述した条項 3.2, 3.3 は、文献について「本文中での引用」のしかたを説明しておらず、また脚注・謝辞以外の「注」についても本文中での注番号の付け方を説明していませんでしたので、以下のように補足説明します。

### ■■■ここから文献について■■■

本文中での引用のしかたと「引用文献」における書き方を示します。

基本的に、下の(1)または(2)のいずれかにしたがってください。

1は著者名を表す文字(ABCや「あいうえお」など)の体系的順序を利用した書き方であり、2は本文中で当該文献を指示または引用した順番を利用した書き方です。

要点は、一貫性のある、合理的な書き方をしていることです。一貫性や合理性において十分ではない、または恣意的であると考えられる場合は、編集委員会において合議し投稿者に修正を求めることがあります。

### (1) 著者名の表記文字を利用した引用

#### ●本文中での引用のしかた

- ・執筆者と発行年を記し、特に文章を直接に引用した場合は該当ページも示すこと。
- ・同じ執筆者が、同じ発行年に複数の論文を発表し、両方を引用する場合は、発行年の後に、a、bなどを付けて区分すること。(次の例参照)

Smith (2009), 山田 (2010a, 2010b) によれば、・・・

小林 (2011) が提唱する献立 (p. 90) は、・・・

近年、「児童において・・・が見られる。」(鈴木, 2005, p. 58) ※「 」内が直接引用

## ●章立てした「文 献」の書き方

基本的に、章の見出しは「文 献」とする。各研究領域の慣習や原稿作成要領により「引用文献」あるいは「引用文献・参考文献」とすることも可。ただし、本文中では触れていないが論文作成に関係しているものとして初出の文献を掲載する場合は、本文中で触れた文献リストの後に記し、その旨末尾にカッコ書きで付記する（例えば「関係論文」など）。

（下の例はAPA（アメリカ心理学会）第5版の方法にしたがっている。和書・洋書を混ぜてABC順に並べている。和雑誌では「あいうえお」順をとる例もある。）

### 文 献 ※センタリングする

小林一郎（2011）. *四季の食事*. 東京：盛夏出版.

Smith, M. (2009). The effects of supports. *Journal of Life*, 41, 300–315.

鈴木花子（2005）. 食と創造性. *食育研究*, 30, 55–65.

山田太郎（2010）. 夜食の分析：大学受験生を対象に. *食育研究*, 35, 100–110.

Zed, A. (1995). *Writing academic papers*. London: Shinano University Press.

※ APA では、著書全体・論文全体の所蔵情報を掲載する。本文中で特定のページを引用した文献も載せる（ただし引用したページ番号は本文中に明示）。著書タイトル、掲載雑誌タイトル（論文タイトルではない）は斜字体を用いる。日本語論文タイトルは「 」で、和雑誌タイトルは『 』で括ってもよい（上の例では英語にあわせて斜体字を用いている）。

※ 上の例は数多の学術誌のほんの一例。たとえば、APA では執筆者の直後に発行年が来るが、発行年を当該行の末尾に置く例もあるので、それぞれの原稿投稿者が所属する学会の学術誌の書式にしたがってください。

## （2）本文中で指示または引用した順番を利用した引用

### ●本文中での引用のしかた ※上付き半カッコ数字を付ける

Smith (2009)<sup>1)</sup>, 山田 (2010)<sup>2)</sup> によれば、・・・ ※発行年は付けない例もある

ここで取り上げる献立<sup>3)</sup> は、・・・

近年、「児童において・・・が見られる。」<sup>4)</sup>

※ 「 」内 p.58 は文献欄に記載。

本文中に記載する例もあり。

この解釈の一例として<sup>5)</sup>、・・・

●章立てした「文 献」の書き方

文 献 ※センタリングする

- 1) Smith, Marry : The effects of supports. *Journal of Life*, vol. 41, pp. 300–315. (2009)
- 2) 山田太郎：大学生のコミュニケーションスタイルの分析, *心理学研究*, 45 巻, pp.100–110. (2010)
- 3) 小林一郎：*四季の食事*, 盛夏出版 (2011) p.90
- 4) 鈴木花子：食と創造性 *食育研究*, 30 巻, pp.55–65. (2005) p.58
- 5) 同上, p.60

※著者名から右の、年号、タイトル、所蔵情報の書き方は一例です。各学会誌の執筆要領にしたがってください。(上の例ではタイトルを斜字体にしているが、「」や『』を用いる要領もある。)

※本文において同一の箇所に複数の引用がある場合は、下のように半カッコ番号をカンマで区切って分離を強調してください。

当該理論を支持する知見が複数報告されている<sup>6),7)</sup>。

■■■ここから「注」について■■■

本文中での注番号の書き方と「注」における書き方を示します。  
基本的に、下の(3)または(4)のいずれかにしたがってください。

**(3) 注番号を、上付きとし、半カッコを付けない方法**

●本文中での注番号の付け方

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1)</sup>。

●章立てした「注」の書き方

注 ※センタリング

<sup>1)</sup> 低学年のケースは他書を参照されたい。

#### (4) 注番号を、“注”を頭に付けた上付きとし、半カッコを付ける方法

これは、文献の書き方について、「本文中で指示または引用した順番を利用した引用」を採用した場合に、注番号と文献番号が混乱することを避けるための方法です。

##### ●本文中での注番号の付け方

本稿では高学年に限定して記述した<sup>注1)</sup>。

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1)</sup>、<sup>注1)</sup>。 ※文献番号も必要とされた例

##### ●章立てした「注」の書き方

注 ※センタリング

注1 低学年のケースは他書を参照されたい。

※「注」の中で、さらに文献を引用する場合は下のように引用の番号を書いてください（「文献」の欄に題目・所蔵などを記載する）。

注1) 低学年のケースは他書<sup>29)</sup>を参照されたい。

※ このほかの要領として、注番号を上付き、太字指定するという方法もある（下例）。

本稿では高学年に限定して記述した<sup>1</sup>。 一方、山田<sup>1)</sup>によれば・・・。

※ <sup>1</sup> が注番号（太字になっている）、<sup>1)</sup> が文献番号。

■■■おわり■■■